社說

議員買收

世間の噂に政府は議會に多數を制するの手段として内々金を散じて議員を買收したりとの說あり我輩は眞僞如何を知らざれども假りに之を事實とするも敢て怪しびに足らず騷々しく評判して喋々非難するみを事とする野事の骨頂なり政府非政府兩黨相對して互に主義政見を殊にして相爭ふ僅々の頭數にて成敗を決す可き其場合に金の爲めに動かされて去就するものあらんには當人は平素の主義を賣りたるものにして節操の缺は免かるべからず容易に行はれざる談にして斯る手段を試みるものもなからんなれども今の政黨を見れば其爭は決して主義の爲めに非ず政府の施設は前後を比較して格別の相違を認めず只當局者の顏の變りたるのみなるに政黨の望が殊更らに其間に分隔くして云々するは單に前内閣に贊成したるが故に現政府に反對なりと云ふの外に理由の見る可きものなし即ち其爭は主義の爲めに非ざる明白の證據にして所謂毛嫌に外ならざれば當局者の身として兎に角に議會に多數を制して此處を經過せんとするの手段を考ふるときは只餌導を馴らして近くるの外なきのみ若しも主義の上に反對するものならんには之を近くるなか〳〵容易なら ず或は思ひ止まるみとならんなれども反目の點は毛嫌ひに過ぎずして之を近くるも自から手段なきに非ず而して内々金を散ずるが如きは最も易くして最も有效のものなりと云ふ今の黨局者が目下の窮策として之を行ふ深く慚しびに足らざるなり或は政府たるものが苟も議員を買收するとは怪しからぬ次第なりなど云ふものもあらんなれども抑も其議員なるものゝ撰擧運動を見るに投票を得るが爲めに何千圓何萬圓を費したりと云ふ其運動費は何の爲めに費したるか奔走の費用、宴會の入費なども多からんなれども詰り撰擧人に賂したるに外ならず直接に投票の賣買は法律に許さゞる所なれども既に撰擧の爲めに法外の金を散じて其金の力は間接に撰擧人の意志を動かしたるのみか實際には何票何圓の價を以て買入れたるの談さへなきに非ず何れにしても投票の買收は實際の事實談として何人も認ずる所なり既に投票を買ふものならんには自から議權を賣るみとなしと云ふ可らず賣るものあれば買ふものも生ずるみとなれ單に政府を呑ひるは野暮なりと云ふ可し抑も政黨の本色は主義の爭に在り金錢の爲めに說を賣るが如きは主義の罪人にして斷じて許す可らざる所なれども今の政界に其事の容易に行はるゝとあれば即ち政黨の本色未だ明ならざるが爲めのみ無に議員の中には身に定まりたる職業もなく年中都下に滯在して種々の奔走周旋なせに口を糊しながら俄時しか碧ぼの風に染みて酒樓に暖食し花牌を弄ぶなど無益の費沓にも費も少なからず借金に苦しめられて殆んど身を處するに窮するものもなきに非ずと云ふ斯る輩に至りては假令ひ買收云々のみとなきも容易に金の爲めに動かさるゝものにして其だ無母しからずと云ふ可し畢竟政黨の全體に一定の主義なく又その銘々に獨立の志操なければ其買收などの手段も行はるゝみとなれば今後の政黨は空論を一定すると共に銘々の志操を堅固にして如何なる手段も施すの餘地なからしむるの外あるの可らず願くは如くにして始めて政黨の本色を認む可きのみ

○赦免者懺悔談（九）

窃盜四犯刑期三年六箇月
東京府下出生士族　高山眞太郎

本日よりは少しく物語り方向を變へて永年間詐僞窃盜の群に伍し有らゆる秘術を盡して巨多の金品を掠め取りたる大膽不敵の樂上君子數名の實歷談を揭ぐべし讀者若し之を通讀せば日頃窃盜の難を防ぐ唯一の妙法と心得たる邸宅及び錠前の如きは如何に堅固に如何に嚴重に收締るも到底無益の勞たるを知り得べし談まず〳〵逆むに臨ひ與まず〳〵多く讀者の目て夢にだも思ひ當らざる秘事奇計の歷々として紙上に現はるゝものあらん此處に記する高山を初め其他數名の者は孰れも深く今回の惡與に感じ翻然前非を悔いて今は深川平久町大日本貧民救助慈善會に投じて正業に就かんと期し居る者なり

初犯

私は始め博奕が大好きで厶りましたそれですから養子に行つた先きは可なり良い身代でしたが直曾な遣ひ果し何うも仕方がないので夫れから近處の土藏を破りまして夫れが爲め初め三箇年の處刑を受けました、其時は横濱の貸座敷で遊んで居る所を捕まりました

再犯

第二番目は矢張東京から五六里離れた或る村の酒造家へ二人で這入りました、一人の共犯者が酒が好きだもんですから醸酒藏で酒を少し飲みました、夫れで寒いから火を起して居るうち睡氣が催したと見えて其處へ轉ばつて了つた、私も小さい爐に火があるから田舍の事で弗箱なんぞは厶りませんが徐々金の這入つて居さうな處に出掛けました、さうすると其側の座敷に大勢者衆が寢て居ました、二人は姑く其處に潛伏として居ました、夫れから漸く目を覺して眼を覺した、二人は姑く其處に潛伏として居ました、夫れを家が皆な働きに行つて了つて、何でも泥棒に違ひない、泥棒だ〳〵と云ひながら外面へ駈出して火の事へ登つてワヤ〳〵半鐘を搗き立てた、大勢の事で何うしても堪らんから夫れで慌ろなしに逃げ出した、近處の者も大分騷出したが其儘逃げて了つて三日目に新宿の一丁目の玉木屋と云ふ貸座敷で遊んで居りました、處が一人の共犯者が馬鹿だもんですから下らぬ事を多言つたので夫れから段々知れまして二局の探偵に捕まり其時は家宅侵入罪で一年六箇月喰ひ込みました

犯

其家へ這入りました時分には短刀を以て鍵のある處を抉つて其抉抜いた處から手を出して鍵を開けた、一種私井はカッパラヒ位で何も出來ませんが堅固な土藏でなければ、家内へ這入るのに別段器械も何も要りません、夫れで這入るまでは怖いですが中へ這入つて了へば怖いみとも何もありません、中へ這入る時分には何處からでも逃げられるやうに八方鍵を外して置きまして若し眼でも覺して見付かつたら逃げて了ひます、けれども一時から二時までの間と云ふものは家の者が枕に就いてさへ居れば中々目を覺すものではありません、寢て居て目を開いて居た處がさう分るものではありません、マア私共の這入ります家は前から容子を見て置くと云ふやうなみとは一向ありません、大抵知らぬ家に這入ります、這入れば何處に何があると云ふみとは大概分ります、其處は商賣ですから——當節の窃盜は大概物品に手を着けません金ですな（金の在處は何うして搜るか）商人の家ならば土藏とか弗箱とかですがれ邸内抔では枕元か用簞笥が多いそりや大抵分ります

犯

三度目に處刑を受けたときは東京下谷根岸の或る役人の家へ這入りましたその夜は吉原に遊びに參らうと思つて出掛けましたが未だ少し早さも早し致しますから土手の石階と云ふ牛屋で酒を飲みました、其處で飲酒的もなくブラ〳〵と根岸に參ると書生さんが三人許り歩きながら「旦那は明朝は一番汽車で江戸に出でになる」と云ふみとをチラッと聞いた、それから後を尾けて行くと其書生さんが「何うしても今度旦那は二百圓や三百圓の金は要る、明日は福鳴で阿父さんと阿母さんの法事があるのだからな」と云ふ話を一寸聞いたからなほ〳〵何家へ這入るか知らんと思つて其書生さんの後を尾けて參つた、さうすると根岸、吉原の後ですな、其處に立派な門構の家がある、其家へ這入つて門をめた、夫れで私は垣根を乘踰えて這入りまして姑く裏へ廻つて家内の容子を見て居ると未だ書生さんが新聞を見て居て寢ない、丁度正月の十五日の晩で寒さは寒しするから漸く裏口から忍込んで中へ這入ると勝手に七輪があります、れ書生さんがまだ火を消切らんで餐ぐらゐの火がポツ〳〵ありました、夫れから懷靈から火を出して火を起して姑く暖つて居りました、處が酒を少し飲過して居るもんですから寒い心持に暖まつたのでトロ〳〵と眠つた、ヒョッと眼を開くと時計が三時、みりやさわ大變だ、モウ三時だ、夫れから漸く目を覺して旦那の枕元に參りますと明日福鳴へ立ちになると云ふので大きなズックに鞄があつてズックの中には若旦の衣類がありて鞄に金がありました、夫れを家外に持出して再び參つたら枕元に金側の時計があり三角になつて居るから（手眞似をして）何うしても眼を覺されて「此方へ飛出して奥さんと二人で寢て居る何うも斯う云ふ眞に斯う角子の樹があるから此方には跨がなければ其時時を取るみとが出來ない、眼を覺

●京都及び下關合同ミックス！
米國ミックス！
を引き又その